

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700052		
法人名	社会福祉法人昭寿会		
事業所名	福寿苑グループホーム		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町満願寺5861		
自己評価作成日	令和3年9月	評価結果市町村受理日	令和3年12月14日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	https://www.kaigonohonne.com/jigyosho/22885		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・令和2年1月からのコロナウイルス感染症が全世界で発生し、まだ収束に至らず現在なお感染防止対策が取られている状況の中、当苑でも感染防止策をとリクラスターを発生させない為に職員の行動制限をしながら頑張っています。ご家族とも以前の様に会えない為毎月写真入りのお手紙を書いて送ったり、窓越し面会での対応をしたり、状況が許される時には予約制で時間制限で玄関先での面会をして頂いております。また、イベント関係や地域交流ができなくなり、苑内でできる事を季節感を味わいながら行い、家族と会えない寂しさを職員が埋められる様に支援して参りました。まだまだ続くコロナウイルス感染症との戦いですがクラスターを起こさない様に職員一丸となり、引き続き支援して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症が終息に至らない中、職員は入居者の心配や不安を少しでも軽減できるよう、寄り添いながら趣味や特技、その方らしいおしゃべりなどを支援している。また、家族には電話に加え、写真にホーム内や車窓ドライブ等日常の一コマと、居室での様子を加える等、訪問できない家族の気持ちをくみ取った職員の配慮が伝わってくる。ホーム玄関はいつでも家族や来訪者を迎える事が出来るよう、紅葉した木々や季節の草花を生け、ホーム内も経年を感じさせない手入れが行き届いた空間である。ゆったりとした居室には、職員を身近に感じて安心して欲しいと職員写真表が掲示されているのもホームならではの取組である。昼食後ひと休みされる方や、広告紙を使った趣味の手芸を手土産にと渡される際には、「入れる袋はありますか？」の心づかいに職員も学ぶことばかりと語っている。昨年は水害により隣接する本体施設への避難も経験し、あらためて法人や行政との連携の重要性をあげている。馴染みの職員による細やかな支援は入居者・家族の安心となっており、変わらぬホーム運営が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年11月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を唱和し理解を深め、理念の通り実践し利用者の生活に反映しています。	開設時より変わらぬ理念には入居者の“あなたらしさ”を失わず、これまで通り地域の中で暮らし続けることを謳い、パンフレットへの掲載や運営推進会議などを通じた啓発により家族や地域へ発信している。コロナ禍にあっても家族からの厚い信頼はゆりぎなく、一人ひとりに寄り添ったケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や法人内のイベントはコロナの関係で中止となっていますが、地区の草刈りには参加して地域の一員として努める事ができました。	例年であれば法人や地域行事に参加し、地域の一員として入居者に多くの出番がもたらされるところであるが、今年度は法人行事も各部署ごとに企画し行われている。現在は、社会の状況をみながら少人数でのドライブや外来受診時に神社参拝に立ち寄るなど地域との関係性が薄れないように配慮している。食材搬入に訪れる地元業者からの情報などもホーム運営に反映させている。	地域の清掃活動に職員が参加している。また、キャラバンメイトの活動を継続し、今年度はリモートにより認知症啓発に取り組んでおり、今後も地域への貢献に大いに期待した。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でご利用者の暮らしぶり等を話し、認知症の理解に努めています。また、キャラバンメイトとして南小国町の小学5年生を対象に認知症サポーター養成講座に参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員の方やご家族の方の参加を頂き、活動状況やご利用者の様子をお伝えしています。昨年度からのコロナ禍で思うような取り組みが行えていない。	コロナ感染症の現状と照らしながら開催の可否を検討し、現在は法人会議室を会場として直接開催を行っている。行政や地域の代表者が参加しており、入居者の活動内容や暮らしぶりを伝え、リスクマネジメントに対するホームの姿勢などを発信している。地元の警察関係者による不審者などに対する安全対策の講義なども法人全体に継続されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者は必ず運営推進会議に参加して頂き、日頃より電話等で連絡をしています。	運営推進会議には毎回行政担当者が参加し、ホームの現状を共有しながら意見を運営に反映させるとともに、地域代表者からの情報を検討する機会でもある。一昨年の大雨では当ホーム前を流れる川が氾濫し、床上浸水の被害に見舞われるなど自然の驚異を経験しており、行政との連携が今後の河川工事等により対策が進むことが期待される。	昨年の水害はホームの迅速な対応にて人的被害に及ばなかったことが幸いである。災害対策について年間カリキュラムを作成し、毎月勉強会の機会を作るなど危機管理体制を強化している。継続した取組が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修やGHの勉強会で取り上げ、身体拘束はしない原則の下職員の意識を高めています。	法人研修やホーム内の勉強会で拘束のないケアの実践に向け、職員の意識強化を図っている。特に入居者への言葉かけや言葉使いについて慣れてしまう事のないよう、理念である尊厳についても振り返るようにしている。定期的なケアチェックでも言葉使いについての不安や戸惑いが多くみられるようである。センサーマット、人感センサーについては入居者のプランに入れて家族への説明、了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に苑内研修で学び、勉強会で話し合い、「職員の行動指針」で一人ひとりの職員に確認をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH内の勉強会で学び、知識として持っていると思いますが、それを活用する対象者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、不安な事や不明な点はないか確認をしています。報酬改定や負担金の値上げ時には説明を行い承諾書を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の満足度アンケートや運営推進会議で意見を聞き、反映しています。 例：コロナ禍での面会のあり方・帰宅願望時の対応・医療機関への送迎について	入居者へはアンケート(満足度調査)を実施し、わかりやすい表現にて聞き取り形式で確認している。身近な食事については「何でもおいしい」「酢の物を増やして欲しい」「パン食があればと思う」など率直な意見が聞かれている。家族へは写真とともに入居者の日々の姿を伝え、電話で意見や要望を収集するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議やGH内の勉強会や個人面談の時に意見を聞き、要望がある時は迅速に対応しています。 例：外灯設置・苑内の壁紙の補修・リクライニング椅子の補充等	法人の業務改善会議に参加して情報を共有し、研修の機会や意見や気づきがあればその都度出し合い、風通しの良い関係を築いている。本年度はホームの環境整備に対策が講じられており、職員自身のリフレッシュ休暇の導入や有休取得、希望休への対応など働きやすい職場作りに努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年度はほぼ全職員がリフレッシュ休暇を取得し、人事考課では一人ひとりの頑張りを評価して仕事に対するやりがいを感じて頂いていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月苑内研修を実施し、参加できない職員には資料を提供し伝達方式として学ぶ機会を確保しています。法人内での事例研究発表会では事例をまとめて発表する事ができました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度はこのコロナ禍で阿蘇地域の地域密着型連絡協議会も滞っている状態で、最近アンケート調査がありました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉を傾聴し、安心できる様に言葉かけを行い信頼関係を築く様に心がけています。例：行きつけの美容室に強い希望があり、感染状況が落ちついている時に送迎		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在コロナ禍で面会が以前の様に気軽にできなくなっている事が不安な事だと思います。電話や窓越しでの面会、担当職員が月に1回写真入りのお手紙を送って不安の軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族からの情報を得ながら、他のサービスが必要であるか見極めながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家庭菜園を作ったり、団子やらつきょう漬け等を職員と共に作り、作る楽しみを分かち合っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前の様に気軽に面会ができない状況ですので、必要時には家族に電話をして声を聞いて頂いたり、窓越し面会等で本人を支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で交流が難しいが感染状況を鑑みながら行きつけの美容室に行ったり、同じ敷地内の施設に転所している家族を尋ねたりして支援を続けています。	入居者に馴染みの祭りや地域行事が中止となったものの、状況と相談しながら家族との窓越し面会や行きつけの美容室への外出などが出来ている。入れ替わりのない職員体制が入居者との馴染みの関係性を作っており、花壇やプランターでは花や野菜の育ち具合を楽しみ、この夏には立派な西瓜が収穫され、ジュースやゼリーの手作りおやつとして提供されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、殆どのご利用者はリビングでランプや五目並べ、体操をして過ごしています。ご利用者同士の関係が難しい時は職員がご利用者の間に入って取り持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫婦で入居されていたご利用者で妻が介護度が上がり同じ敷地内の施設に入所されましたが、夫が面会できる時には職員が付き添い面会に行き、相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションやセンター方式の「私の気持ち」やケアプランで本人の希望意向を把握し希望意向に応えられる様に勉強会で話し合っています。	月の便りで入居者の日頃の様子を家族へ発信しながら電話などで要望を聞き取るようにしている。入居者の思いはアンケートを通じてわかりやすく質問を投げかけ、希望を確認したり、普段の会話から引き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	24時間シートやセンター方式「私の気持ち」シートを活用し、これまでの経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせて無理のない日々を過ごして頂ける様に職員が情報を共有し同じケアを提供しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍で中々直接家族とのケア会議も行えずにご意見ご意向は電話等でお尋ねをしています。その人らしさを大切にケアプランに反映しています。モニタリングは3ヶ月毎に行い、状態が変わればその都度変更しています。	プランには理念である“あなたらしさ”に焦点を当て作成されている。本人・家族の意向に寄り添い入居前からの生活習慣やホーム活動の中で個々の力が発揮される内容となっている。自身で化粧をされてから毎朝リビングに姿を見せる女性など、一人ひとりの生き方を尊重している。3か月ごとのモニタリングで評価、修正を行い現状に即した内容としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報の共有としてカーデックスに気づきや申し送りで把握し、毎日の様子はケース記録で記載し、見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで応えられてきたニーズが迅速に対応できなくなっていますが今出来る事を対応している状況です。今は我慢我慢の日々ですが感染状況に応じて支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域との交流ができない状況ではありますが、感染状況を鑑みながら行きつけの美容室に出かけたり、散歩やドライブ等をしたり今できる事を支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続と専門科受診時にはかかりつけ医からの紹介状を頂き、当苑で送迎しご家族の体調が良ければ同席して頂いています。	本人・家族の了承のもと全員が協力医療機関をかかりつけ医として、現在は訪問診療が行われている。他科受診は家族の状況に応じて、職員による送迎など支援し、受診内容を共有できるようにして。個々の健康状態は写真送付時などにも状況を記し特に、遠方の家族からの定期的な電話連絡には、思いをくみ取りながら丁寧に対応し相談事に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の日頃の観察で気づいた事は看護師に伝え、苑内の看護師不在の時は同敷地内の特養の看護師にフォローする体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と連携し、入院中の状況や退院に向けての話し合う機会を設けて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明しご家族より同意を頂いています。また苑内のできる医行為が限られていますのでその理解と本人・ご家族の希望に沿った支援ができる様に努めています。	入居時に重度化に関する指針をもとにホームの取組を説明し、同意を得ている。ホームでの医療支援には制限があり、日頃から本人・家族の思いをくみ取った支援ができるようにしている。昨年5月には「最期はホームで」という要望に応え、医師や職員との連携、家族との共有を図りながら104歳の方の看取り支援が行われている。特にコロナの為、居室での面会を控えてもらったが、限られた中で面会支援が行われた。	看取り支援後はその方を偲びながらカンファレンスを開催している。今後もホームに出来得る日々の支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度はコロナ禍で消防署職員からの受講はできませんでしたが法人内での苑内研修での教育にて復習する事ができました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として避難訓練を年間計画を立て実施しています。特に水害に対しては実際に昨年被害があり、実際行った避難に対して検証する事ができました。	火災訓練として今年度は7月に消防署より2名の参加を得、日中想定で行われ、1月に2回目を予定している。勉強会で災害について共有を図っており、運営推進会議でも、行政へ安全管理について報告や依頼を行っている。昨年の水害時には本体施設で一週間の避難を体験している。日々の安全管理については、加湿器やエアコンなど高い位置の掃除は男性職員によって実施されている。	ホーム横を流れる川の氾濫時は、本体施設へ避難するなどし、あらためて自然災害の怖さを体験している。今後も有事への対応についてはホームに出来る事と、行政との連携を図りながら備えていかれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライバシーを守り、独りで過ごす事を好まれる場合は安心して過ごされる様に見守ります。	入居者の尊重やプライバシーを損ねない対応については、全職員が日々意識を持って努めている点である。接遇等に関してもマナー向上委員会やホーム内でも共有を図る機会が持たれている。呼称は苗字や反応のよい下の名前でも対応している。身だしなみやおしゃれについても個々を尊重し、支援している。鏡に映った自身の髪を見てパーマを要望され方には行きつけの美容室支援が行われている。また、好みの衣類を沢山持参し、クロゼットに掛けている方、朝一番にお化粧をしてホールに集われる方など、自分のおしゃれや楽しみが継続されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にご利用者の思いが伝えられる様に急がせずゆったりとした雰囲気づくりをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて日々の暮らしを支え一人ひとりの希望に添える様に職員間での情報を共有しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起きて自分で洋服を選ぶ方、お化粧を毎日される方等自分でおしゃれを楽しみにしており、継続できる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で収穫した野菜を料理したり、季節毎のメニューを楽しんでいます。現在は、コロナ禍で一緒に準備や片付けはできていません。嗜好調査を半年1回行い、食事に反映しています。	主食のご飯をホームで炊き、副菜は本体施設で調理されたものを利用している。また、ホームの菜園で収穫した野菜も酢のものなどの一品として提供されている。半年に1回の嗜好調査結果を活かしており、パン食への要望にも応じている。現在、コロナ禍により入居者が調理などに関わる機会を持たれていない。入居者の代弁者として検食者1名を設け、感想を活かせるようにしている。	食材の下ごしらえや片付けなど、現在入居者の関わりはないが、菜園管理など出来る事で食への関わりが支援されている。コロナ終息後は以前のように、入居者個々に応じて腕を振るう機会が持たれることが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックや水分量の測定が必要な方、一人ひとりの状態に合わせて食事形態や食器の選択等を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行います。見守り、介助を要する方の支援を行います。口腔内に異常があったりする場合は歯科医に繋がります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや付き添い見守り支援しています。	個々の排泄パターンを職員間で共有し、声掛けや誘導、見守りが行われ、布パンツやリハビリパンツに尿取りを使用される方が殆どである。現在、昼夜テープ式オムツの方も、以前は可能な限り二人介助でリハビリパンツの支援が行われていた。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、プライバシーへの配慮から昼間はクロスが掛けられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳、毎夕のヨーグルト、週2回のバナナヨーグルトを摂取して頂いています。又、ウキウキ体操ややまびこ体操を継続し、廊下を歩いて運動をしている方も居られます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の体調・時間・曜日の希望をお尋ねして入浴しています。5月の菖蒲湯、12月の冬至のゆず湯を準備し季節を楽しんで頂いています。	月曜から土曜まで入浴の準備を行い、体調や時間、同性介助への要望にも応じながら週2～3回の支援に努めている。脱衣所を含め整頓と清潔を心掛け、明るい浴室でゆっくりと入浴を楽しまれている。菖蒲や柚子湯も季節を楽しむ工夫として継続して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングのソファで過ごされ、自由に休息できる様に声掛けしています。夜間不眠時にはリラックスできる様に飲み物を準備して付き添います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の作用や副作用が解る様にまとめています。また服用して頂く時は誤薬がない様にマニュアル通りに服薬介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出が中々できなくなっていますが、天気の良い時には散歩や外でお茶会をして気分が晴れる様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴やドライブ等をして季節感を味わって頂く様に支援しています。コロナ禍で以前の様に家族・地域の人々との交流が難しいです。	入居者にとって野菜作りは慣れ親しんだものと考え一緒に野菜作りを畑やプランターで行い、外気に触れる機会としている。この夏は大玉のスイカが8個ほど実り、ゼリーやジュースにして楽しまれたようである。以前のような外出は控える現状であり、桜の花見や紅葉見学を車窓ドライブで実施している。また、行きつけの美容室利用等個別で支援している。外出の様子も写真で伝え安心してもらうようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお小遣いを自己管理されているご利用者が3名居られ、大切に保管されていますが現在の所、問題はありません。管理ができない方は事務所の金庫で預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、施設からかかかって差し上げています。暑中見舞いや年賀状は自分で書いて家族に出しています。担当者は毎月お手紙と写真を出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍で飲食の時は、パーティションを使用、常時空気清浄器や定期的に換気を行っています。テーブルには季節の花を飾り、共用の空間は、毎日清掃し清潔です。	玄関先やホーム内には庭先に咲いたものや職員が持ち寄った草花を飾ったり、壁面作品などを掲示し季節感のある空間となっている。入居者はリビングから畑の様子を見たり、台所の炊飯の匂いも日常生活の一部となっている。感染症への対応として空気清浄機の活用や掃除、換気の徹底、パーティションの使用などに努めており、それらが入居者に不安にならぬよう配慮している。また、席の配置も介護の度合いや相性などを考慮して決定している。	物的な環境に加え、馴染みの職員による適切な支援が何よりの居心地の良さにつながっていると思われる。感染症への対応から法人作品展が今年度はグループホーム単独で行われている。入居者や職員の力作を次回は多くの家族や来訪者に見てもらえるようコロナの終息が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームでは本人が好きな場所で過ごせる様にソファやリクライニング椅子を準備しています。リビングの食事用のテーブルは気の合った方同士同じテーブルにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の思い出の写真や品が置いてあり、本人が居心地が良い様に家具を配置しています。	掃き出し窓の開放感ある居室は、十分な広さとクロゼットの設置により整頓も行き届き、歩行や車いす利用者も安心して移動ができる空間である。また、担当職員を中心にその方に応じた雰囲気作りに努めており、お気に入りの衣類を沢山持ち込まれたり、広告紙を使ったペン立てなどの小物づくりに精を出される方など、自宅に居るような時間を過ごされている。玄関内にも掲示されている職員紹介の顔写真表が全居室にも掲示され安心や「あんたはこれな〜！」と話が弾み楽しいひと時になるようである。	面会が制限されている現状であり、職員は居室の様子を写真で郵送し、家族の安心に繋げている。どの居室も一人ひとりに応じた居室環境が整備されており、継続した取組が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の目線に合わせた表示をし、危険がない様に導線を確保しています。自分が出来る事は見守り、出来ない事はサポートする様に職員が共有しています。		